

明治天皇御製

- 一 国民もつねに心をあらはなむもすそ川の清き流に。
- 二 榊葉にかくる鏡をかがみにて人も心をみがけとぞ思ふ。
- 三 ちはやぶる神のまもりによりてこそわが葦原の国はやすけれ。
- 四 とこしへに国まもります天地の神の祭をおろそかにすな。
- 五 わが国は神のすゑなり神祭る昔の手ぶり忘るなよゆめ。
- 六 おごそかに保たざらめや神代よりうけつぎ来るうらやすの国。
- 七 めにみえぬ神の心に通ふこそひとの心のまことなりけれ。
- 八 あさみどり澄みわたりたる大空の広きをおのが心ともがな。
- 九 さしのぼる朝日のごとくさわやかにたまほしきは心なりけり。
- 十 大空にそびえて見ゆるたかねにも登ればのぼる道はありけり。

敬神生活の綱領

- 一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以つて祭祀にいそしむこと
- 二、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 三、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共榮とを祈ること

禊祓行事次第

当日早旦禊祓場を弁備す

其の儀、禊祓場の四方に斎竹を立て、注連縄を張り渡す。

時刻道彦及び受講者参進 是より先手水の儀あり

其の儀、受講者代表神籬を捧持し、道彦の先導に依り進む。

次に道彦及び受講者禊祓場に著く

次に脱衣

次に受講者各其の位置に整列す

次に受講者代表神籬を禊祓場中央奥に建つ

次に祓詞を斉唱す

其の儀、神籬に向ひ、道彦の先導に依り二拝二拍手合掌、次祓詞を斉唱し、畢りて二拍手二拝す。

次に鳥船行事

其の儀、第一段は、先ず左足を斜左前に踏み出し、両手を突出して握り、上体を前に倒してから

両手を引き寄せ、次に前下方へ突出す。両手を引寄する時に「イーエツ」前下方へ突出す時に「エ

ーイツ」と唱へ、之を繰返す。次に道彦の合図に依り元の姿勢に復し「祓戸大神」と連唱しつつ、

振魂を行ふ。第二段は、右足を斜右前に踏み出し、両手を胸の辺に引寄する時「イーイツ」両手を

前下方に突出す時「ホ」と唱へる外は第一段に同じ。第三段は、左足を左斜前に踏み出し両手を

引寄する時は両手を握り、両手を開いて突出す、掛声を「イーイツ。サ。」と唱へる外は第一段に

同じ。

次に雄健行事 ふたけづ

其の儀、足を開き両手を腰に当て、道彦の発声に従ふ。

「生魂 足魂 玉留魂」

次に雄詰行事 ぶころづ

其の儀、左手は腰に当てたまま、第一、第四、第五指を折り、第二、第三指を立てて、眉間の辺に構へ、

左足を踏み出し、「国常立命」と唱ふ、「イーエツ」の気合と共に右手は空間を斜左方に切り下ろし、

右足を左足にそろえる、「イーイツ」の気合と共に右手を元に戻し、右足も元にもどす。三度反復

次に気吹行事 りぶき

其の儀、両手を広げて差上げると同時に大気を静かに腹中に収めて両手を頭上に組み、次いで

徐々に下げながら腹に納めた状態にし、上体を屈するに従ひ、静かに息を吐く。三度反復

次に見瀬行事

其の儀、「エーイツ」の気合と共に水に入る。次いで振魂をしつつ、「祓戸大神」を連唱す。次いで道彦の合図で合掌して大祓詞を連唱す。

次に鳥船行事

其の儀、前に同じ。

次に雄健行事

其の儀、前に同じ。

次に雄詰行事

其の儀、前に同じ。

次に気吹行事

其の儀、前に同じ。

次に道彦及び受講者神籬に向ひ二拝二拍手一拝す

次に道彦及び受講者一拍手をし、お互に「おめでとう」と祝福す

次に各退下

其の儀、受講者代表神籬を捧持し道彦の先導で退く。

附記

一、服装は白衣、白袴、白鉢巻、白緒草履とす。

二、脱衣のまま参進する場合はこの限りでない。

三、身滌の際、男子は白鉢巻、白禪、女子は白鉢巻、白半長襦袢、白帯、白下ばき等着用する。

四、鳥船行事の間、適宜鳥船行事の和歌を唱ふ。

鳥船行事の和歌

朝夕に神の御前にみそぎして、すめらが御代に仕へまつらむ。　　イーエツ。　　イーイツ。

遠つ神固め修めし大八州、天地共にはに榮えむ。　　イーイツ。　　ホ。

天神地祇等みそなはせ、思ひ猛びて我がなす業を。　　イーイツ。　　サ。

鎮魂（布瑠部神業）行事次第

時刻道彦及び受講者所定の座に着く是より先手水の儀あり

次に振魂を行ふ（無言）

其の儀、両手を臍下前方に右手を上にして掌を軽く組み合はせ連続して上下に振り動す。

次に祓主祓詞を白す 此の間諸員平伏

次に所役大麻を執りて祓ふ 此の間諸員平伏

次に大祓詞、十種祓詞、ひふみの祓詞（数度反復）十種神宝大御名（数度反復）斉唱す。

其の儀、道彦の先導に依り二拝二拍手、次大祓詞以下斉唱し、畢りて二拍手二拝す。

次に鎮魂布瑠部神業

次に神拝詞、称言、斉唱す

其の儀、道彦の先導に依り二拝二拍手、次斉唱し、畢りて二拍手二拝す。

次に明治天皇御製を斉唱す

其の儀、道彦の先導に依り斉唱す。

次に各退下

食前感謝

静座。 一拝一拍手

たなつもの百の本草もあまてらす日の大神のめぐみえてこそ。 頂きます。

食後感謝

端座。 一拝一拍手

朝よひに物くふごとに豊受の神のめぐみを思へ世の人。 御馳走さま。

禊並びに鎮魂（布瑠部神業）行事次第の栞